

平成30年度 福島県小学校長会 活動方針・重点

ふるさと「ふくしま」の未来を担う心豊かでたくましい子どもたちの育成

福島県小学校長会は、東日本大震災以来、様々な課題に直面しながらも、学校は復興の拠点としての自覚のもと、福島県長期総合計画で示されている本県教育の基本理念「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」の実現に向け、その方向性を示す3つの基本目標である「知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成」「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」「豊かな教育環境の形成」を目指し、全ての会員が心を一つにして取り組んできている。しかし、震災後今なお求められている子どもたちの心のケアや体力・運動能力、学力の向上、さらには、教職員の多忙化といった大きな課題がある。また、震災から8年目を迎え、被災地域においては、仮設校舎での教育活動とともに帰還しての学校の再開といった、厳しい環境の中での学校運営が続いていく。あわせて、新学習指導要領の移行期間にあたり、改訂の背景と目指す方向性、移行措置の内容等をしっかりと踏まえた学校経営が求められている。

このような状況であるからこそ私たち校長は、ふるさと「ふくしま」の未来を担う心豊かでたくましい子どもたちの育成の実現に向けて、全ての会員の英知を結集し、連帯意識と強いリーダーシップを発揮していかなければならない。そして、校長としての時代を見通した先見性や時代の要請に応える創造性、教育理念に裏打ちされた優れた経営力により、小学校教育を一層充実させていくことが重要である。

これらを踏まえ、平成30年度福島県小学校長会では、目指す子ども像を実現し、学校教育に寄せる県民の大きな期待に応えるために、次のような活動方針及び重点を設定する。

1 活動方針

- (1) 地域に根ざし、創造性にあふれた明確な経営理念のもと、信頼される学校づくりと目指す子ども像の実現のために、組織的に研鑽する校長会を目指す。
- (2) 会員一人一人が校長の職責を十分に自覚し、会員相互の連帯により確実に実践を積み重ねることにより着実に成果をあげ、各支会活動の充実・発展を図る。
- (3) 県教委、地教委、全連小・東北連小等関係機関との連携を密にし、被災校の教育機能の回復・充実、会員が抱える諸課題の解決に向け、計画的に行動・実践できる校長会の充実を図る。
- (4) 新学習指導要領への円滑な移行と教職員の多忙化解消、次代を担う管理職・教職員の人材育成のために、全県的な協力体制のもと、実効ある活動を展開する。
- (5) 管理職の大量退職に伴い、人格・識見及び管理能力等の優れた若手教員、女性教員の積極的な管理職登用を要望し、組織の充実を図る。

2 活動の重点

- (1) 保護者や地域から信頼される学校づくりを目指すとともに、「ふるさと『ふくしま』の未来を担う心豊かでたくましい子どもの育成」を一層推進する。
キーワード：新学習指導要領への確実な対応と教職員の資質向上
 - 教職員の多忙化解消や教職員人事評価制度への適切な対応
 - 新学習指導要領の移行措置、全面実施に向けたカリキュラム・マネジメントの充実
 - 管理職や教職員の育成・資質向上を目指す研修の充実
 - 心身ともに健やかな子どもの育成を目指す健康課題等の改善、SNS等の情報端末の適正な活用啓発
- (2) 東日本大震災・原子力災害対応を含む教育諸課題について共有し、各部の活動を連動させることにより、教育の機能回復（創造性に満ちた教育の活性化）及び教育課題の解決に向け努力する。
 - 県小学校長会のWebサイト等による情報発信と共有化
 - 避難を余儀なくされている学校や本来の地区に帰還した学校を有する支会との密接な連携と協力・支援
 - 県教委及び地教委による教育施策の実施状況や震災等による教育諸課題解決に向けた教育施策の整備状況を正確に把握するための調査、課題の集約と要望活動の充実
- (3) 支会活動の活性化を図り、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの実施を促進する。
 - 学校経営者である校長としての強い自覚と教育課題解決に向けた創意ある実践の促進
 - 県研究主題「ふるさとに誇りをもちたくましく未来を拓いていく子どもを育てる学校経営と校長の在り方」のもと、校長の果たすべき役割と指導の在り方に視点を当てた組織的な研究の推進
- (4) 関係機関等との情報交換や調査データの適切な収集・分析・考察により、教育諸課題の解決に向けた具体的な資料の提供と提言を行う。
- (5) 福島県総合計画、福島県復興ビジョン及び第6次福島県総合教育計画、頑張る学校応援プランに基づく教育の充実について、県教委・地教委等関係機関と連携し、教育施策の積極的な推進に当たる。